

# 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年 1月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2872700360		
法人名	社会福祉法人 正峰会		
事業所名	グループホーム さくらんぼ		
所在地	兵庫県西脇市黒田庄町黒田1601 - 30 (電話) 0795 - 28 - 5550		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成20年12月11日	評価確定日	平成21年 1月13日

## 【情報提供票より】(平成20年11月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年 4月 1日(母屋)、平成17年 3月15日(新宅)		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 8人, 非常勤4人, 常勤換算	12人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨耐火構造 造り		
	平屋	階建ての	~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000(母屋)、30,000(新宅)	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	有(200,000円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( )円	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(11月15日現在)

利用者人数	18 名	男性 0 名	女性 18 名
要介護1	3	要介護2	3
要介護3	5	要介護4	4
要介護5	3	要支援2	0
年齢	平均 86.1 歳	74 歳	最高 96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大山病院、加西市民病院、河原歯科
---------	------------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

日本の中心地点西脇市にあり、四季を感じることが出来る自然に囲まれた穏やかな環境のもとにある。母体病院は加古川を挟んであり、医療連携が充実しており、高齢者が安心して暮らせる環境である。ホームは母屋と新宅の2ユニットでそれぞれ中庭もあり、明るく落ち着いた雰囲気である。入居者の中には要介護4、5の方もおられるが、それぞれの表情は穏やかで、趣味の継続の支援等自由な暮らしを支えられている。99歳の方が夏場体調を崩された時には、ホーム全体でケアし、回復された時は、職員、入居者みんなで喜びを共有することができている。「お一人おひとりが生き生きと輝き、居心地のよい豊かな暮らしを創る。」を理念に掲げ、入居者の暮らしを支えているホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価を活かし、訪問看護事業所との連携により、医療面の充実を図り、センター方式の導入等、ケアの向上に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	自己評価は日ごろのケアを見直す機会と捉え、現場の意見を聞きながら管理者がまとめ、改善点や気づきを得ている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	昨年の開催はできていたが、今年は、管理者の交代や参加者の日程調整ができなかったために実施できていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	個別には家族との連携が取れており、意見や苦情を受け入れ検討し、対応する取り組みは見られる。多くの家族が集まり、意見や要望を言える機会は設けられていない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	ボランティア活動を通じて、地域の人との交流はできているが、ホームから地域に出向くことや地域住民の一員としての活動、交流までには至っていない。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「お一人おひとりが生き生きと輝き、居心地の良い豊かな暮らしを創る」と言うさくらんぼ独自の理念をつくり、個別ケアの実践、職員教育、地域密着型施設として地域との共存を基本方針として、日々のケアに反映させている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念及び基本方針を掲示するとともに、ミーティング時には共有できるように話し合い、理念に基づいたケアを実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアを通じ地域の方との交流はできており、クラブ活動等は定期的実施している。地域活動への参加や地元の方との交流は今後取り組んでいく予定である。		地域の中で暮らす住民として地域活動や役割を持てるよう積極的な取り組みに期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を活かして、母体法人の訪問看護事業所と契約し、事業所の多機能性を活かした取り組みやセンター方式の導入等、改善に取り組んでいる。また、今回の自己評価により改善点を明確にできている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年は開催できていたが、本年度は管理者の交代や自治会、市職員等との日程調整がつかず開催できていないのが現状である。</p>		<p>利用者・家族・地域住民の代表・市職員・地域包括支援センター職員・知見者をメンバーに2ヶ月に一度開催し、地域密着型事業所としての活動を報告し、助言や意見交換、地域交流のための対話を行えるよう今後の取り組みに期待する。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市職員から施設見学の要請があり、担当者との情報提供の機会があったが、合併により連携が図りにくくなっている。</p>		<p>市担当者、地域包括支援センター職員との積極的な連携を図ることで、サービスの質の向上を図るとともに課題解決に取り組んでいくことが望まれる。</p>
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>1ヶ月に一度、日々の経過記録、金銭管理資料等を送付し、3ヶ月に一度は、広報誌を同封している。また、面会時には、暮らしぶりや様子を詳しく話すようにしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や苦情を職員が真摯に受け止められるようホーム内に掲示している。家族が集まる機会が少なく、今後行事等での来訪時に家族会の設定も検討している。</p>		<p>家族も一緒にホームでの暮らしを支えるためには、より多くの家族が集まれるよう工夫し、意見や苦情を表現しやすい環境作りが望まれる。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット間での交代は、行事等で顔見知りになっているため、スムーズに馴染めている。また、新しい職員の場合は、ユニットリーダーや職員が間に入り、よい関係が保てるよう配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内の研修や勉強会への積極的な参加や外部研修へ参加した時は、報告書の記載とともに伝達研修もできている。各職員の段階に応じた教育にまでは至っていない。		管理者や職員が段階に応じてスキルアップできるよう計画を立て、職員育成を図っていくことが望まれる。
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	法人内のグループホーム4箇所ネットワーク作りはしており、相互訪問や交流活動を行っている。ただ、市の合併により地域が広がったため、市内のグループホーム同士のネットワーク作りは今後の課題である。		これまでの経験を活かし、連絡会等を発足し、市内のグループホームの交流の場を作り、共に質の向上を図ってほしい。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	入居の希望があった場合、事前に面接し、グループホームについての説明や本人・家族の状況・意向を聞き、本人も一緒に見学に来てもらい、雰囲気を見たり、一緒に過ごし、納得してから利用としている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	介護する立場ではなく、一緒に過ごすという考え方により、日々の生活の中で教えてもらったり、会話を通じ学ぶことが多い。入居者と職員の関係は良好である。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式の導入により、本人・家族の希望や意向を把握し、日々の会話や表情の中から汲み取るよう心がけている。センター方式の充実を目指しているところである</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月に一度のモニタリング（点検）と面会時に家族の意向や思いを聞き、ユニットミーティングでカンファレンス（会議）を持ち、個別の計画を作成する。立案した計画は本人、家族に説明し、了解を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>半年に一度、また、状況変化時に計画の見直しを行っているが、時期が遅れる事もある。月に一度のミーティングではスタッフ間の検討が充分に出来ず、ショートカンファレンスの必要性を感じているところである。</p>		<p>入居者それぞれに職員の担当者が決まっているため、担当職員が中心となって情報を確認し、責任を持って状況に応じた計画の見直しを検討されてはいかがだろうか。</p>
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>同法人の訪問看護事業所と契約を結び、週に二度の定期訪問と、体調不良時、緊急時の訪問が可能となった。また、夜間の連絡体制も整備されている。訪問看護を通じて病院との連携もスムーズに出来ている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	立地的にも殆どの入居者が母体の病院を主治医に希望し、2週間に一度、往診に来てもらえる。同病院以外が主治医の場合は、家族または職員が定期受診に同行する体制となっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までは家族の希望で終末期は病院に入院しており、ホームでの見取りを行った事例がない。家族からの要望の声も上がっており、これからの取り組みも検討もされている。		訪問看護、病院との連携を図り、早い段階での家族の意向を確認し、職員の研修やスキルアップを図り、ターミナル受け入れの整備に期待する。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を大切に思い、出来ない事が増える中で本人を傷つけないよう表現や言葉かけに注意し、接するよう努めている。個人情報の保護には充分注意し、記録物は適切に管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースやしたいことを聞き、対応しているが、待てずに手をかしたり、急がせてしまう等、職員の対応についての気付きを得ている。		職員やホームの業務の流れの中ではあるが、入居者の思いやペースを大切にケアを充実させて欲しい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は、同グループの配食サービスを利用しているが、ご飯とお汁は育てた野菜を使い毎食作っている。また、週に一度と行事の時には、入居者は、献立、買物、調理等に取り組んでいる。週に一度の取り組みではあるが、入居者の明るい表情や食欲増進に効果が大きい。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の出勤を考慮し、遅出の体制をとり、希望に応じて夕食後でも対応できるようにしている。無理強いせず本人の希望に合わせ、楽しく毎日入浴できる配慮がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活においては、家事を一人ひとりに合った出来る範囲で取り組んでもらっている。また、趣味の継続の支援として琴を職員と一緒に練習し、発表会を開いたり、茶道を続けたり、一人ひとりに合わせた支援が出来る。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスポーツジムで機能訓練に通ったり、買物や喫茶店に行くが、限られた人で、日々の散歩や定期的な外出が難しい。		ホームにはゆったりした庭があり、周りも自然が多いため、気分転換に戸外でラジオ体操をしたり、自然散策をして四季を楽しむ等、のんびりした時間を持ち、穏やかに過ごせるよう支援して欲しい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠による弊害を理解し、夜間以外は玄関居室の施錠はせず、各スタッフが全入居者の所在を常に分かるよう注意している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	年に1回は、消防訓練を行ない、避難場所の確認や持ち出し品を準備している。ただ、夜間想定訓練は実施できていない。		手順や連絡網を整備し、地域との協力体制も視野に入れた災害対策が望まれる。また、夜間を想定し、夜勤時の職員体制での入居者も交えた避難訓練に取り組んで欲しい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	栄養摂取に関しては、健康チェック表に食事摂取量を記載し、それぞれ対応している。水分摂取については、1日1,000ml以上を目標に時間ごとに摂取してもらい、状況も確認している。必要な人は水分チェック表に摂取量を記載し、管理している。また、夏場は全員把握するようにしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	自然に季節感を味わえるよう花壇や居間に季節の花を飾っている。また、それぞれ思いのまま過ごせるよう廊下にテーブルやソファを設置し、くつろげる空間作りを工夫している。テラスで日光浴も出来るよう椅子の配置もしている。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室には馴染みの家具や装飾品を持ってもらい、安心して過ごせるよう配慮している。琴を置き、職員と一緒に練習する方もおられる。		

 は、重点項目。